

〈 学校外部評価委員会 〉

開催日 2026 年 5 月 29 日(金)

参考資料 ①学生満足度アンケートデータ ②教職員自己点検評価結果 ③2025 年度冬学期定期テスト結果 ④出席率一覧 ⑤進路実績一覧 ⑥退学・修了・除籍等一覧 ⑦学則

評価委員 赤城永里子

大阪経済法科大学 国際教育交流センター部長代理、日本語教育運営会講座長、
経済学部教授、博士(言語文化学)

千々岩宏晃

京都橘大学 文学部専任講師

参考資料を確認いただき、対話による形式で質問や提言等をいただいた。

Q. 学則の修了卒業の認定について、「自ら管理する能力を含む総合的な学習評価が5段階(A~E)のC以上」とあるが、「自ら管理する能力」を数値化できるのか。自己評価などもあるが、正しく評価できるのか。

A. ポートフォリオや自己評価は、生徒自身の気づきと成長にもつながると考えている。入学時より授業や定期的な面談の中でFBを与えることで、自分自身を振り返り見つめ直すことを目的としている。これらを記録蓄積したものを教員が評価し、定期テストの結果に加えることで総合的な評価とし、成績表に記載する。生徒と担当教員の対話、教員同士の会議を行うことで、客観的かつ妥当な評価になるようにしている。

Q. 生徒が自律的に学習するようにするために、資格を取らせるようにするのはどうか。学習習慣の形成に役立ち、その成功体験は次に挑戦しようとする自律的な学習意欲につながる。

A. JLPTなどの日本語能力だけでなく、各学生に合わせたものを検討していきたい。

Q. 成績表の会話テストについて、学生は何を評価されるのかわかっているのか。

A. 学期初めのオリエンテーションで、評価については説明しており、学生は評価項目について理解している。

Q. テストを作成するにあたり、どのような基準で作成しているのか。レベルにあっているのか。

A. 定期テストに関しては、基本的には授業で取り扱ったものから作成している。授業内容を理解し、日々の小テストや課題を復習していれば、高得点を十分取れる内容である。また、作文テストや会話テストに関しても、その学期で取り扱ったものと同程度の表出ができれば、十分高評価を得ることができるよう設定している。2026 年10月から、認定日本語教育機関として、さらに適切な評価ができるように現在協議修正中である。

Q. 出席率が低めの層に特定の国があるが、原因は。

A. 進学塾にも通っており、睡眠時間を削るなど生活リズムの乱れから、遅刻や欠席をしがちな傾向がある。個別面談で指導・カウンセリングを行っているが、出席率をあげきることはできなかった学生が多い。また、一定数、留学生活に馴染めず、精神的にまいって休みがちになり、面談・カウンセリングが必要な学生がいた。

Q. 低いレベルのまま上にあがれない学生がいるが、LD（学習障害）が原因である可能性もあるのでは。特性に合わせてサポートしていくのはできないか。

A. たしかにその可能性はあるように思われる。どのように判断・サポートしていくか、検討していきたい。

Q. 退学の主な理由は。

A. 就職や結婚など理由は様々だが、日本の生活に馴染めない、精神的な問題などで帰国する学生が上記の質問の国の学生で多く見られた。この傾向は続くと考えており、対応策を考えていきたい。

Q. 退学後について把握しているのか。

A. 在留資格の変更、ビザの停止処理、帰国確認などは追えているが、その後についてはすべてを正確には把握できていない。進学も含め、卒業後の状況を定期的に把握したいと考えているが、現状は着手できていない。

Q. 学生満足度アンケートにおいて、昨年と比べ、評価が下がっている原因は。

A. アンケート方法を紙へ記入する方法からオンラインフォームに切り替えたことにより匿名性が高くなり、評価の心理的なハードルが下がったことが一つの理由だと考えている。そのことにより、教師への気遣いや忖度などが減ったと考えられる。また、アンケート時に趣旨を丁寧に説明し、率直な評価を呼びかけるように努めたことも理由の一つだろう。

Q. 教職員自己点検評価結果でもあったが、図書館などの整備はできていないのか。

A. 蔵書の見直しや入れ替えなど、できていなかった。この4月から改善に取り組んでいる。

Q. 昨年も指摘したが、教職員のために PPT などの提供は行っていないのか。それができないとしても、例えば、授業準備の効率化のノウハウなどを学べる研修を行ってみてはどうか。専任にも非常勤講師にも負担減のメリットがあるように思う。

A. 今年も議題には上がったが、提供は行っていない。が、今後も検討はしていく。研修についてのご提案も前向きに検討していきたい。

Q. 安全管理について何か取り組みは？避難訓練などはしているのか？何か起きたときのことをしたほうがいい。取り組み例として、寮でも避難訓練を定期的に行ってみては？

A. 年に一回防災訓練を行っている。本年は、火災を想定した避難訓練を行った。寮での訓練は、現時点では難しいが、検討課題としたい。また、交通安全について、交通ルールの周知や交通指導、ヘルメット着用の推奨など、こまめに行っており、地元警察と連携しての交通指導を検討している。